

築瀨一雄編

瘳心集

△異本▽

古典文庫

築瀬一雄編

寂心集

〈異本〉

古典文庫

古典文庫第三〇一冊

昭和四十七年六月二十日印刷発行

© 非売品

集心発本異

編者 築瀬一雄

発行者 吉田幸一

印刷者 東京都板橋区熊野町三四
帝都印刷製本株式会社

発行所

114 東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話(九一〇)二七一七
振替口座東京一四五九七番

凡 例

一 本書は、神宮文庫に蔵する『発心集』を翻刻し、山鹿光世氏所蔵の素行文庫本との校異を本文の後へ一括して示した。

二 両本とも、各巻頭に目録を有するが、これはすべてを一括して、序の前に掲出し、第一巻の前に序の一項を加へた。下に本書の頁を示したこととともに、検索の便を考へての処置である。

三 説話項目の上に与へた数字は、異本発心集に於ける通し番号であり、その下の括弧内に示した数字は、流布本に於ける排列の通し番号である。『鴨長明全集』所収本との照合に便するためである。

四 両本とも、句読点は全く存しないのであるが、繙読の便を考へて、句点のみを施した。中止法ともとれる場合、その他明確でないものについては、私の判断によつた。

五 濁点は、底本とした神宮文庫本に存するものに限つた。底本の濁点が誤りであることを指摘する場合をのぞき、校合本の濁点との異同は、掲出を省略した。

六 異体仮名及び合体仮名は、なるべく底本のままとした。但し校合本との異同は、掲出を省略した。

七 漢字は、異体字、略字をおほむね通行のものに改めた。その一覧は別表に示す通りである。但し、次のものは底本の用字に従ひ、校合本との異同は、掲出を省略した。

獸・厭 恠・怪 所・処 又・亦
𦵏・妊 佗・佗 无・無 泪・涙

八 表記が漢字と仮名の相違にすぎず、意味上に変りがあらはれないものは、校異の掲出を省略した。

九 和歌の末が本文に連続して書かれてゐるが、これは別行とした。

〔漢字表〕

亞(亞)、幽(幽)、因(因)、咽(咽)、烏(烏)、役(役)
 煙(烟·烟)、厭(厭)、恩(恩)、果(果)、菓(菓)、碍
 (碍)、骸(骸)、綱(綱·綱)、漢(漢)、氣(氣)、器
 (器)、歸(歸·歸·皈)、耆(耆)、棄(棄)、冀(冀)
 傾(傾)、橘(橘)、京(京)、況(况)、極(極)、局(局)
 欣(欣)、教(教)、叫(叫)、僅(僅)、愁(愁·愁)、兼
 (兼)、憲(憲)、源(源)、顧(顧)、壺(壺)、懇(懇)
 歲(歲·歲·止)、最(最)、薩(薩)、殺(殺·殺)
 算(算)、參(參)、齒(齒)、事(事·事·亅)、時
 (時)、象(象·象)、昵(昵·昵)、重(重)、蛇(蛇)

寂(寂)、皴(皴)、皴(皴)、笑(笑)、葺(葺)、寢(寢)、盡
 (盡、盡)、制(制)、雪(雪)、然(然)、慥(慥、慥)、
 陀(陀)、態(態)、對(對)、答(答)、注(注)、鑄
 (鑄)、沉(沉)、珍(珍)、通(通)、庭(庭)、程(程、
 裡)、敵(敵)、顛(顛、顛)、鬼(鬼、鬼)、等(等、
 逃(逃)、奈(奈)、業(業)、熱(熱)、年(年)、發(發、
 範(範)、譬(譬)、憑(憑)、賓(賓)、淳(淳)、
 負(負)、聞(聞)、閑(閑)、菩提(菩)、脈(脈)、
 妙(妙)、无(无)、野(野)、埜(埜)、融(融)、又(又)、
 陸(陸)、靈(靈)、料(料)、遠(遠)

目次

凡例	一
総目録	七
発心集序	一五
発心集卷第一	一八
発心集卷第二	五三
発心集卷第三	九七
発心集卷第四	一三二
発心集卷第五	一八〇
校異	二三二
解説	二七九

総目録

発心集序……………	五
発心集巻第一……………	六
一（一）玄賓僧都遁世遂電ノ事……………	六
二（二）同人宮ニ仕伊賀ノ郡司ニ事……………	二
三（三）平燈供奉晦 ^{〔クラク〕} 跡ヲ趣ニ ^{〔タル〕} 與州ニ事……………	二五
四（四）千観内供遁世事……………	二六
五（五）僧賀上人遁世事……………	三〇
六（六）高野南筑紫ノ上人発心事……………	三四

七(七)	教懷上人水瓶破事 *カメ	付陽範阿闍梨事	三
八(八)	佐国花 サコク ヲ愛メ蝶 *ト 成〔ナル〕事		四〇
九(九)	止水谷上人魚食事		四二
一〇(一〇)	天王寺瑠璃上人事 付仏性聖ノ事		四五
二(二)	高野ノ麓ニ上人偽ニ妻ヲ娶事 〔メトル〕		四八
	発心集卷第二		五三
三(三)	守輔発願往生事		五三
三(三)	助重カ一声ノ念仏ニ依テ往生ノ事		五五
四(三九)	讚州源 *大 〔太〕夫発心往生事 *心ヒ		五七
五(二六)	江州ノ増テノ叟ノ事		六一
六(二七)	伊与ノ僧都大童子事		六三

二七(二六)	伊与ノ入道往生事……………	六
二八(二六)	参河ノ入道逆縁ナカラ往生事……………	六
二九(二五)	内記入道事……………	六
三〇(五〇)	〔ハ、ムス〕メヲ〔ネタ〕ンテ 母女妬手ノ指蛇ニ成事……………	七
三一(五二)	亡妻現身帰ニ来夫ノ家ニ事……………	七
三二(七三)	乞食尼 ^{アマヒトヘ} 单衣ヲ得〔ヘ〕テ同寺ニ奉加事……………	七
三三(六六)	母子三人賢者死罪ヲ遁事……………	七
三四(七五)	上東門院女房深山ニ住事……………	八
三五(二三)	或上人客人ニ不レ会事……………	八

末之二ヶ条難有念仏之勤信有之

二六(六三)	証空阿闍梨師匠ノ命ニ替ル事	九七
二七(三三)	或女房天王寺ニ参テ入海事 往生神變ノ事也	一〇二
二八(三三)	蓮華城入水事	一〇五
二九(二七)	仙命上人事	一一〇
三〇(六三)	正管僧都ノ母為 ^ニ 子志深 ^キ 事	一二四
三一(ナシ)	新羅明神僧ノ発心ヲ悦ヒ給フ事	一二七
三二(ナシ)	桓舜僧都依 ^テ 貧 ^ニ 往生事	一二〇
三三(三〇)	或上人補陀落山ニ詣事	一二三
三四(二八)	樂西上人事	一二五
	发心集卷第四	一三一
三五(一九)	僧相真没後ニ返 ^{シタル} 袈裟 ^ヲ ニ事	一三一

三六	(ナシ)	或ル禪尼ニ山王ノ御託宣ノ事……………	一三四
三七	(ナシ)	侍従大納言ノ家ニ山王不浄ノ咎メノ事……………	一三七
三八	(四七)	日吉ノ社 ^エ 詣ル僧死人ヲ取り弃ル事……………	一四〇
三九	(六一)	勤操榮好カ遺跡ヲ憐ム事……………	一四四
四〇	(五二)	不動ノ侍者生テ牛ト成ル事……………	一四八
四一	(七二)	幡磨ノ室ノ泊ニ遊君共鼓ノ曲メ結ニ縁 ^{セシ} 聖人 ^ニ 事……………	一五〇
四二	(七四)	郁芳門院ノ侍長住 ^{スル} ニ武蔵野 ^ニ 事……………	一五一
四三	(三三)	書写山ノ客僧断食往生ノ事……………	一五三
四四	(三四)	樵夫独覺ノ事……………	一五九
四五	(三五)	証玄律師所望深キ事……………	一六一
四六	(三六)	親輔養兒往生ノ事……………	一六三

四七(三七) 松室ノ童子仙ト成ル事……………一五

四八(四八) 唐坊法橋発心ノ事……………一六

四九(五七) 花園ノ左府詣ニ八幡宮ニ祈ニ給往生ニ事……………一七

五〇(五八) 目上人法性寺供養ニ堅ク道心発シタル事……………一七

五一(六〇) 貧ナル男好ニ差図ニ事……………一七

発心集巻第五……………一八

五二(四二) 叡実憐ニ路頭ノ病人ニ事……………一八

五三(四二) 肥州ニ有ル僧妻ニ為レ魔ヲ事恐キ惡縁也……………一八

五四(四三) 玄賓係ニ念シ亜相ノ室家ニ不浄ヲ觀スル事……………一八

五五(四四) 或女房臨終ニ見ニ魔ノ変ニ事……………一八

五六(四五) 或人臨終ニ不ニ遺言ニ事……………一九

五七	(四六)	武蔵国入間河ニ洪水ニ会事	一九五
五八	(五九)	乞児物語事 付賤キ老翁望ニ名官*ニ事	一九九
五九	(三〇)	真浄房暫ク作 ^{リタル} ニ天狗ニ事	二〇四
六〇	(三三)	乞食ノ僧隠レ徳ヲ事	二〇九
六一	(二三)	或上人隠ニ居メ京中ニ独 ^ニ リ行事	二二三
六二	(二四)	永観律師ノ事	二二五

〔注〕(一)は流布本の通し番号である。

*及び「ハ」は素行文庫本との異同である。*は加はり、「ハ」はなきものである。

